

| | |
|----------|-----------------------------|
| 年度 | 2025年度 |
| 研究科 | 経済学研究科 |
| 課程 | 修士課程 |
| 入試方式 | 一般選抜試験（A日程） |
| 試験科目 | 論文「専修志望科目」および「英語」（出願時1科目選択） |
| 実施日（試験日） | 2024年9月10日 |

解答又は解答例及び出題意図

(試験問題自体を公開しない場合はその理由)

〈出題意図〉

本試験は、経済学研究科のアドミッション・ポリシーに基づき、受験者が志望する専門分野における基礎的知識を有しているか、また、その知識を活用して論理的かつ多面的に思考し、記述する能力を備えているかを確認することを目的としている。

設問は、専門分野の基礎的トピックを中心に構成されており、受験者が各自の観点から論述する形式とすることで、専門知識の修得状況と学問的思考力の双方を評価できるように設計されている。

英語については、大学院において英語文献を参照しながら研究を遂行するために必要となる英語読解能力と、日本語の表現能力を測ることとしている。

〈採点時の観点〉

採点時の観点は以下のとおりである。

- ・設問の趣旨を正確に把握し、論点に的確に応答しているか。
- ・各専門分野に関する基礎的な概念や用語を正確に理解し、適切に用いているか。
- ・論理構成が一貫しており、主張と根拠の関係が明確で、説得力のある記述となっているか。
- ・英語については、広く研究の対象となる専門分野の英語文献を読解し翻訳できるかを確認することを意図している。

なお、設問の性質上、唯一の正解が存在するわけではないため、内容の正確性に加えて、論理性・一貫性・表現力を含む総合的な観点から評価する。

| | |
|----------|------------------|
| 年度 | 2025年度 |
| 研究科 | 経済学研究科 |
| 課程 | 修士課程 |
| 入試方式 | 社会人特別選抜試験（A日程） |
| 試験科目 | 小論文（文章作成能力を主に問う） |
| 実施日（試験日） | 2024年9月10日 |

解答又は解答例及び出題意図

(試験問題自体を公開しない場合はその理由)

〈出題意図〉

本試験は、経済学研究科のアドミッション・ポリシーに基づき、受験者が社会人として大学院で研究を行うにあたり、自身のキャリアと大学院での学びをどのように結び付けているかを明確に示す力を確認することを目的としている。

この設問は、単なる研究志向にとどまらず、社会人としての経験を踏まえた現場視点と研究を統合するビジョンを有しているか、さらにその成果を社会へ還元しようとする未来志向の姿勢を評価することを目的としている。

〈採点時の観点〉

採点時の観点は以下のとおりである。

- ・設問の趣旨を正確に把握し、論点に的確に応答しているか。
- ・各専門分野に関する基礎的な概念や用語を正確に理解し、適切に用いているか。
- ・論理構成が一貫しており、主張と根拠の関係が明確で、説得力のある記述となっているか。

なお、設問の性質上、唯一の正解が存在するわけではないため、内容の正確性に加えて、論理性・一貫性・表現力を含む総合的な観点から評価する。

| | |
|----------|-----------------------------|
| 年度 | 2025年度 |
| 研究科 | 経済学研究科 |
| 課程 | 修士課程 |
| 入試方式 | 一般選抜試験（B日程） |
| 試験科目 | 論文「専修志望科目」および「英語」（出願時1科目選択） |
| 実施日（試験日） | 2025年2月3日 |

解答又は解答例及び出題意図

(試験問題自体を公開しない場合はその理由)

〈出題意図〉

本試験は、経済学研究科のアドミッション・ポリシーに基づき、受験者が志望する専門分野における基礎的知識を有しているか、また、その知識を活用して論理的かつ多面的に思考し、記述する能力を備えているかを確認することを目的としている。

設問は、専門分野の基礎的トピックを中心に構成されており、受験者が各自の観点から論述する形式とすることで、専門知識の修得状況と学問的思考力の双方を評価できるように設計されている。

英語については、大学院において英語文献を参照しながら研究を遂行するために必要となる英語読解能力と、日本語の表現能力を測ることとしている。

〈採点時の観点〉

採点時の観点は以下のとおりである。

- ・設問の趣旨を正確に把握し、論点に的確に応答しているか。
- ・各専門分野に関する基礎的な概念や用語を正確に理解し、適切に用いているか。
- ・論理構成が一貫しており、主張と根拠の関係が明確で、説得力のある記述となっているか。
- ・英語については、広く研究の対象となる専門分野の英語文献を読解し翻訳できるかを確認することを意図している。

なお、設問の性質上、唯一の正解が存在するわけではないため、内容の正確性に加えて、論理性・一貫性・表現力を含む総合的な観点から評価する。

| | |
|----------|------------------|
| 年度 | 2025年度 |
| 研究科 | 経済学研究科 |
| 課程 | 修士課程 |
| 入試方式 | 社会人特別選抜試験（B日程） |
| 試験科目 | 小論文（文章作成能力を主に問う） |
| 実施日（試験日） | 2025年2月3日 |

解答又は解答例及び出題意図

(試験問題自体を公開しない場合はその理由)

〈出題意図〉

本試験は、経済学研究科のアドミッション・ポリシーに基づき、受験者が社会人として大学院で研究を行うにあたり、自身のキャリアと大学院での学びをどのように結び付けているかを明確に示す力を確認することを目的としている。

この設問は、単なる研究志向にとどまらず、社会人としての経験を踏まえた現場視点と研究を統合するビジョンを有しているか、さらにその成果を社会へ還元しようとする未来志向の姿勢を評価することを目的としている。

〈採点時の観点〉

採点時の観点は以下のとおりである。

- ・設問の趣旨を正確に把握し、論点に的確に応答しているか。
- ・各専門分野に関する基礎的な概念や用語を正確に理解し、適切に用いているか。
- ・論理構成が一貫しており、主張と根拠の関係が明確で、説得力のある記述となっているか。

なお、設問の性質上、唯一の正解が存在するわけではないため、内容の正確性に加えて、論理性・一貫性・表現力を含む総合的な観点から評価する。

| | |
|----------|-----------------------------|
| 年度 | 2025年度 |
| 研究科 | 経済学研究科 |
| 課程 | 修士課程 |
| 入試方式 | 一般選抜試験（C日程） |
| 試験科目 | 論文「専修志望科目」および「英語」（出願時1科目選択） |
| 実施日（試験日） | 2025年3月1日 |

解答又は解答例及び出題意図

(試験問題自体を公開しない場合はその理由)

〈出題意図〉

本試験は、経済学研究科のアドミッション・ポリシーに基づき、受験者が志望する専門分野における基礎的知識を有しているか、また、その知識を活用して論理的かつ多面的に思考し、記述する能力を備えているかを確認することを目的としている。

設問は、専門分野の基礎的トピックを中心に構成されており、受験者が各自の観点から論述する形式とすることで、専門知識の修得状況と学問的思考力の双方を評価できるように設計されている。

英語については、大学院において英語文献を参照しながら研究を遂行するために必要となる英語読解能力と、日本語の表現能力を測ることとしている。

〈採点時の観点〉

採点時の観点は以下のとおりである。

- ・設問の趣旨を正確に把握し、論点に的確に応答しているか。
- ・各専門分野に関する基礎的な概念や用語を正確に理解し、適切に用いているか。
- ・論理構成が一貫しており、主張と根拠の関係が明確で、説得力のある記述となっているか。
- ・英語については、広く研究の対象となる専門分野の英語文献を読解し翻訳できるかを確認することを意図している。

なお、設問の性質上、唯一の正解が存在するわけではないため、内容の正確性に加えて、論理性・一貫性・表現力を含む総合的な観点から評価する。

| | |
|----------|------------------|
| 年度 | 2025年度 |
| 研究科 | 経済学研究科 |
| 課程 | 修士課程 |
| 入試方式 | 社会人特別選抜試験（C日程） |
| 試験科目 | 小論文（文章作成能力を主に問う） |
| 実施日（試験日） | 2025年3月1日 |

解答又は解答例及び出題意図

(試験問題自体を公開しない場合はその理由)

〈出題意図〉

本試験は、経済学研究科のアドミッション・ポリシーに基づき、受験者が社会人として大学院で研究を行うにあたり、自身のキャリアと大学院での学びをどのように結び付けているかを明確に示す力を確認することを目的としている。

この設問は、単なる研究志向にとどまらず、社会人としての経験を踏まえた現場視点と研究を統合するビジョンを有しているか、さらにその成果を社会へ還元しようとする未来志向の姿勢を評価することを目的としている。

〈採点時の観点〉

採点時の観点は以下のとおりである。

- ・設問の趣旨を正確に把握し、論点に的確に応答しているか。
- ・各専門分野に関する基礎的な概念や用語を正確に理解し、適切に用いているか。
- ・論理構成が一貫しており、主張と根拠の関係が明確で、説得力のある記述となっているか。

なお、設問の性質上、唯一の正解が存在するわけではないため、内容の正確性に加えて、論理性・一貫性・表現力を含む総合的な観点から評価する。